

1600

20/02	日	月	年
日	月	年	日
日	月	年	日

年
當
金

本手當ノ支給ヲ受ケタル者ハ其ノ額ヲ差引タル残額宛シ支給シ可然哉

理由

正規ノ服装ヲ為サレムル必要アルニ依ル

満洲事件費支辨

一三〇二二四



給與令

第五十五條(中、三項畧)

豫備士官ニ任用シ又ハ豫備准士官ニ進級シタル場合ニ於テ初任年當給與ノ必要アルトスハ第十表初任年當相當額ノ三分一以内ヲ結スルヲ得

第十表 初任年當士官四〇〇圓

三分一 一三三圓五三

西暦
身体不適合

中定員百名
定員八十一名

(一) 五五五名表
山崎

事件費

海軍

模造半葉十三行野紙(花崎精)

(8. 11. 200.)

(部内限) 第一千七百三號

昭和九年一月十五日（月）

海軍大臣官房

海軍豫備少尉

[illegible]

(各通)

[illegible]

海軍公報（部内限）第千七百三號
昭和九年一月十五日

九年五月十日

渡邊	駒林	安藤	山田	平石	坂元	篠塚	濱崎	塩味	山下	齋藤	宇野	鈴木	津高	萩野	奥田	大内	大木	嘉村	波田	五島
文一	力	英郎	常三	智光	正信	實	長太郎	常吉	文雄	紅魚司	文雄	晋二	彌治郎	南海男	真一	修助	武雄	政彦	昭三	秀雄

(各通)

[illegible]

○ 雜款

○練習艦隊（磐手、淺間）外國航海行動豫定

[illegible]

○郵便物發送先

第一航空戰隊司令部、軍艦赤城宛

一月二十一日迄ニ到達見込ノモノハ

同二十四日迄二同

同二十九日迄二同

二月二日迄二同

其ノ後ハ 第一艦隊

第二驅逐隊（沖風、澤風、峯風）宛

一月二十九日迄ニ到達見込ノモノ

其ノ後ハ 第一航空戰隊

驅逐艦矢風宛
本欄參照

卷之五

月十五日

海軍公報（部內限）第千七百三號

昭和九年一月十五日

III

8600

海軍公報(部内限) 第七百三號 昭和九年一月十五日

一四

一月十七日迄ニ到達見込ノモノハ 横須賀
同三十日迄ニ 同 佐世保
其ノ後ハ 第一航空戦隊司令部ニ同シ
軍艦龍驤宛
一月十九日迄ニ到達見込ノモノハ 吳
同三十日迄ニ 同 佐世保
其ノ後ハ 第一航空戦隊司令部ニ同シ



海軍豫備員被服手首文給件御裁

昭和八年官房概算中二五二二号決裁ニ依り下

服被服手首トシテ金百三

十円前より減額セラルル者トシテ受入者ト其ノ額ヲ左

列ニ列載スル可シ

昭和九年一月廿二日官房概算中二五二二号決裁

模造中葉十三行厚紙（富井納）

海軍

(9. 3. 200.)

0100

陽機	L0102	保期	3	20	永
関保		機期	發付迄	完結迄	永
		機種			

綴書類

昭和八年十二月 日起案 起案者 捺印

月 日 發付 發付掛 捺印

發付後起 案者捺印

主務局、部 取扱者捺印 起案野紙(甲)

(主務) 經理局長

副官

大臣 次官

書記官

第一課長

第二課長

第三課長

軍務局長

人事局長

航空本部長

昭和八年 月 日

應召中ノ海軍豫備員ニ被服手當支給ノ件仰裁

教育召集中ノ海軍豫備員ニシテ今般引續キ勤務ノ爲
其ノ召集ヲ延期セラレタル者ニ對シ被服手當トシテ

局、部	官房	軍務	人事	教育	軍需	醫務	經理	建築	法務	航空	艦政	軍令

金貳百七拾圓ヲ支給シ可然哉

消

宣

理由

右ノ者ハ應召就職ニ際シ差當リ金百參拾圓ノ被服
 手當ヲ支給セラレタル處今般教育召集ヲ終リ更ニ
 勤務ノ爲引續キ召集セラレ相當ノ長期間服務セシムル
 ニ付テハ正規ノ服裝ヲ爲サシムル爲被服手當定額ト支給
 濟額トノ差額本行ノ通支給ノ要アルニ依ル

(部内限) 第一千六百七十五號

昭和八年十二月二十七日（月）

海軍大臣官房

海軍豫備少尉

中鉢道男

同
今川光夫

同 秋山一雄

同
竹島
釜市

同
原田
唯彦

同
梅林孝次

同
石原
董

同
藤井三郎

同
非上女刀

牧野喜久雄

同利田租

友野有平

同
目
目
文
目

同
中
村
女
台

同 清水正治

海軍豫備少尉 小橋辰雄

海軍豫備機關少尉

同

同

同

同

同

同

同

同

處劃務ノ爲當分ノ

...

海軍豫備少尉

100

小橋辰雄

五五九

150

1

海軍公報（部内限）第千六百七十五號 昭和八年十二月二十七日

五五九

0104

海軍公報（部内限）第千六百七十五號 昭和八年十二月二十七日

五六〇

（各通）

同 石井 留吉
同 井上 喜

海軍豫備機關少尉 増田 健次郎

右昭和八年十一月二十八日教育召集ヲ解除ス（以上
計七品海軍省）



模造小葉十三行罫紙（花略納）

官房第ニ五四七號（昭和六年六月廿九日決裁）

航空術技倆修得ノ爲應召スル海軍

豫備員ニ被服手當支給ノ件仰裁

官房機密第四八八號ニ依リ應召就職スル海軍

豫備員ニ被服手當トシテ金百三十圓ヲ支給シ

可然哉

（満洲事件費 雜給及雜費 武裝手當 支辨）

理由

正規ノ服裝ヲ爲サシメ相當ノ長期間服務セシムル
ニ依リ被服手當ヲ支給スルノ要アリニ依ル

海 軍

(8. 11. 200.)



官房機密第四八號（昭和八年三月十六日決裁）

海軍豫備員航空術講習ノ爲召集ノ件仰裁

時局ニ際シ航空関係要員ニ對スル缺員緩和ノ一策
トシテ左記ニ依リ海軍豫備員ヲ召集シ航空術講習
寄貝施ノコトニ準備ヲ進メ可然哉

記

一召集者ノ範圍

成ルベク停年少ナキ豫備少尉、豫備機関少尉ニ
シテ希望中ノ適任者

二召集員數

豫備少尉 六十名以内

豫備機関少尉 十名以内

三召集期間

機造中葉十三行界紙（花崎納）

(8. 11. 300.)

海軍

昭和八年五月上旬ヨリ約六ヶ月間

四、講習

別紙ニ依ル

参考

航空関係士官ノ缺員ニ對シテハ別ニ繰上教育ヲ實施スルモ
所要ノ人員ヲ得難キ狀況ナルヲ以テ此ノ際豫備士官ニ對シ
本講習ヲ施行シ時局重大ナルトキハ其ノ儘之ヲ保有シ然レ
ラザルトキハ召集ヲ解除スルコトトス

豫備員令第十九條

海軍豫備員ハ戰時軍變演習其他ノ理由ニ依リ必要アルトキハ
勤務又ハ教育ノ爲メ召集ス

前項ノ規定ニ依ル召集ニ関スル事項ハ海軍大臣之ヲ掌ナリ

海 軍

模造半葉十三行野紙（花崎納）

(8. 11. 300.)

海
軍

其ノ召集ノ令達ハ海軍大臣直ニ之ヲ行フ

模造半葉十三行野紙（花崎納）

(8. 11. 200.)

海軍給與令

第五十五條 新ニ士官ニ任用シ、候補生ニ採用シ又ハ下士官ヨ
 リ准士官ニ進級シタルトキハ其ノ際ヤ十表ニ依リ初任手
 當ヲ給ス特務大尉ヨリ少佐ニ、機関特務大尉ヨリ機関少
 佐ニ、主計特務大尉ヨリ主計少佐ニ任用シ又ハ海軍武官
 進級令ヤ第二十一條若ハヤ第二十二條ノ規定ニ依リ下士官ヨリ
 准士官ニ進級シタルトキハヤ十表初任手當相當額ノ三分ノ
 一ヲ給ス

豫備士官ニ任用シ又ハ豫備下士官ヨリ豫備准士官ニ
 進級シタル場合ニ於テ初任手當給與ノ必要アルトモハ第
 十表初任手當相當額ノ三分ノ一以内ヲ給スルコトヲ得

模造半葉十三行界紙（花附納）

海軍

(8. 11. 200.)

海軍給與令施行細則

第六十四條 給與令第五十五條ノ年當ハ左ノ艦團其他

各部ニ於テ之ヲ支給ス

一 特務大尉ヨリ少佐ニ、機関特務大尉ヨリ機関少佐ニ、

主計特務大尉ヨリ主計少佐ニ任用シ又ハ下士官ヨリ

准士官ニ進級シタルトモハ任用又ハ進級當時勤務

ノ艦團其他各部

ニ生徒ヨリ候補生ニ任用セラレタルトモハ其ノ生徒タリシ學

校

三 前各號ノ一ニ該ル場合ノ外經理局

模造中葉十三行野紙（花時納）

(8. 11. 300.)

海軍

TTTTO

112

保期	3	20	永
關保	發付迄	完結迄	永

綴書類

昭和九年四月六日起案
起案者 東京

月 日 發付
發付掛

主務局、部、
取扱者捺印
起案野紙(印)

(主務) 經理局長

第二課長

副官

大臣 次官

書記官

第一課長
山本
相國
山本

(電報)

昭和九年四月十一日

四月十一日午前七時三十分(無線)發電

大臣

旅順要港部第六七號及第七二號海軍大佐
久保田久晴外一名ニ派遣手當支給ノ件認許ス

官房第一二三番電

局、部	官房	軍務	人事	教育	軍需	醫務	經理	建築	法務	航空	艦政	軍令
四月十日												

但レ所定額ノ半額ヲ支給スル儀ト心得ベシ

經理局

旅順要港部第六七號

昭和九年三月二十日

海軍大臣殿

旅順要港部司令官

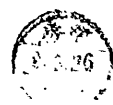
派遣手當支給ノ件上申

左記ノ者頭書ノ用務ヲ以テ派遣致候ニ付海軍戰時給與規則施行細則第八條ノ二第一項ニ依ル派遣手當支給方御認許相成度

記

派遣先	用務	官	氏名
新京關東軍及駐滿海軍部 哈爾濱臨時海軍防備隊、齊々 哈爾北安駐屯陸軍部隊	警備用務ノ爲	海軍大佐	久保田久晴

(終)



海



海軍大臣殿

旅順要港部第七二號

昭和九年三月二十八日

旅順要港部司令

海軍大臣殿

派遣手當支給ノ件上申

左記ノ者頭書ノ用務ヲ以テ派遣セシメ候ニ付海軍戰時給與規則施行細則第八條ノ二第一項ニ依ル派遣手當支給方御認許相成度

記

派遣先	派遣月日	用務	戰時手當ノ支給ヲ受ケタル應及月日	官氏名
新駐滿海軍部 關東軍司令部	三、二八	警備用務	八、三、二 平戸	機大佐 木村 仁

本件寫送付先

佐世保海軍經理部



海軍